いわき民報
發行所 いわき民報社 平市田町四八番地電話三八一番
編輯兼發行人 印刷人 千輝寛巳
（但月曜を除く）
定價一月十五圓一部五十錢

平に對策委員會設置
經營改善と二十四時間制確立に
石炭非常增產

國では石炭非常增產對策の根本となつている炭鑛經營の改善合理化と二十四時間制の確立を期するため、今度平市に石炭非常增產對策委員會を設置することに決した、委員會には事務局も設置して委員會決定諸施策の推進事務もとらせることになつているが、この委員會構成は經營者從業員中心に關係各民間機關と關係官廳代表五十名で行うことになつている、なお右委員會は全國では他に東京、福岡、札幌、宇部の四ケ所にも設置をみるわけで、中央委員會は石炭廳內に置かれることになつた

基準法の徹底未し
屆出は僅かに一割一分三厘

平勞働基準監督署管內の屆出をしなければならない工場、事業所は十一月一日現在調査で三千四十一となつており、この勞働者總數は五万七千六百二名となつているが、十一月末日までに屆出をみたものは僅かに對象の一割一分三厘の三百四十に過ぎない、然し勞働者からみると六割五分が屆出となつている、これは屆出のあつた工場、事業所の中には多數の勞働者を擁する炭鑛等が多い結果である、又勞組の結成狀況からみると結成されているものは全体の三、五%に過ぎない心細さで、炭鑛その他大工場や大事業所を除いては未だ勞働者の自覺が足らないことをもの語つている、全署では十月末から既に十八回にも及んで各地で基準法普及講演會等を開いているにもかゝわらず未だに屆出を等視しているものに對しては全法施行細則七十五條に依つて今度違反として措置することゝした、なお明春早々まで待つて管內の徹底的調査をなし萬全の策を講ずることゝなつている

困窮者保護 實態調査

十五日から實施

市社會課では市內生活困窮者の保護狀況の實態調査を十五日から末日まで行うが平窪は明春一月から行う、各班別調査員は左の通り

◇第一班一、二、三、十一、十四、二十五區（四十一世帶）岸敏夫◇第二班四、五、二十三、十五、二十七區（四十三世帶）長岡昭子、小野不二子◇第三班十六、十七、二十四區（四十一世帶）高木信子、高守良子◇第四班六、八、十二、十三、二十、二十一、二十六區（四十一世帶）花澤行雄◇第五班九、十、十九、二十八區（四十三世帶）佐川充宏◇第六班十八、三十六區（四十一世帶）谷平爺美

漸く順調化
十一月の坑木生產

郡下の十一月の坑木一般用材の生產實績は一万七千六百五十六石で十月より五千二百石增農繁期の割には良成績をおさめた、十一月までの累計は十五万四千三百三十八石で年間生產目標十八万二千四百石の八四六%だからあと四月間には目標完遂は樂に出來るものと地方事務所では太鼓判をおしている

勞務者加配にも 通帳制採用

勞務加配は從來通帳なしで行つていたが今度主食の配給公團法實施とゝもに個人別受配內容を明確にした通帳制によることになつた、この通帳は勞働基準監督署、公共職業安定所の管理のもとに配給量とゝもに職種及び稼働日數や時間を記入させ、そこに些かも不正受配やその他のいまくしいことのないようにするものである

平市供米 部落割當

平地區の供米部落割當

即金 和服洋服買受（電96）
御申込により特別薄利にて期限附
御買戻しの御相談に應じます
平銀座ヨコ紅小路 大崎屋

一方的な調査だ
導火線になつた新妻氏談

第一校事件の導火線になつた平市四丁目の新妻種次氏を訪えば委員會の一方的調査に呆れたと前提し左の如く語る

自分には意外にも重大なる事件の導火線になつた事は實に申譯ない壁の件につき全部資材所有と云う石倉の話により話を進めている內に石灰等は全然なく又所持金も二千円丈と云うので物價勞銀昂騰の爲め自分は第二校にて數萬円の損を來した經驗から捨てられたりすると困る意味にて本人の內見積十二萬七千五百円に二萬五千円の增額を兩人間に合意成立して初めて市に見積契約をしたものである、なお保證金に七千円取られそうだつたのだが拂つておらぬので石灰の袋代は一萬円近くも必要の處七千円丈本人は置いて行つてあります、强要等はもつての外であります、石倉が料理屋大貞に客を招待したのでその經費を支拂うのは當然ですが仕拂うているにもかゝわらず二次會に全々關係のない不肖新妻が仕拂强要等との意味が解せない、十二月の客に對して何を云うのかそ五日、一日の兩市會で意外にも瓦に飛火して發表されこれまた驚きました、織內氏の瓦の契約は同時期の樣に申されておりますが實に一ケ年も差がある事を織內氏から新妻は證明書を貰うてあります、それ處でない軍人だつた子供等も瓦製造に手に豆して期間內に學校の落成に盡力し、しかも市に對しセメント四百八十五袋も立替えてありますのに却て鐵槌を下されましたのには驚きました、又壁の不正事件も若し不正であつたら直しましようと新妻が申出ているにもかゝわらず、保證人の新妻に一言もなく殘金もいつの間にか仕拂はれております、この事件あつて二ケ月余不愉快なので眞相を敵名の幾月の方々にも申し上げましたが苦しい內にもまた面白い事痛快なこともありますが私は氣持の知らぬ石倉を選んだのが過失で市長さん始め市民に申譯ありません

あきれて物が言へぬ
憤慨した飯岡氏は語る

學校の材木で妾の家を建てたと如く宣傳された元神中組總務課長飯岡敏弘氏は憤慨し語る

調査委員會の連中は何を血迷つてタワ言を並べているのか呆れて物が言へぬ、私が妾をどこにかくまつているのか、敎えて貰い度いその家もどこに建てゝあるのか知らせて欲しい、結論的にあの學校が坪三千円內外で出來上つているのでわれくは感謝狀でも贈られるものと思つていたのに飛んだ宣傳をされたものだ、何れ正式に何等かの手段に出る覺悟だ

テングサ增殖計畫成る
植田豐間兩町の海岸地先で

小名濱水產試驗場ではかねて貿易再開を見越して、輸出向の寒天原藻（テングサ）の增殖計畫を立案中のところこの程成案を得たので縣と協力、御時豫算化をはかり實現に乘出すことに決つた、右計畫は植田及豐間兩町地先の水深五尋から七尋程度の磯二千坪に潜水船を利用して磯掃除を行い、こゝに增殖するもので、明年度から實施すると二十五年度から平均坪三貫の收穫であつて乾燥して千五百貫の收納をみるというもので、非常に期待されている

石鹸の割當 二人に一個

郡への割當決る

郡への本年度初の石鹸割當が指令になつた、右によると家庭用十三萬七千二百六十五個家庭用配給調整用、乳兒用三千六百六個で、家庭用は二人に一個の割合ながら配給期日はまだ決らない

協議會は十二日午前九時から平第二小學校で開催した

小名濱日素 十周年記念

明年は月產五千トンへ

小名濱町日本水素工業株式會社創立十周年記念並に硫安生產披露祝賀會は十日午後一時から全工場講堂で開いたが、なお全工場の硫安製造は目下月產二千トンだが、本年中には三千トンに達し、更に明年度は第二期工事として月產五千トン年六萬トンを生產の豫定とある

新制中の完全實施

石城地區教育審議委員會で審議

石城地區教育審議委員會は十三日午前十時から平第二小學校に開き、副會長の選任新制中學校の完全實施並に新制高等學校問題について協議する

いわき寸言

◎人をみたら泥棒と思え、こんな言葉は失いたいもの◎自己の生活を見失うことはそれ自体が不幸であるばかりか、他人もめいわく至極◎今日の政治を嘆く前に先づ青年の自覺とその進路の正しい方向を望む

設計請負
平土地住宅
有限會社
社長 正木昌次郎
平市田町
電二〇一番

眞野の古墳發堀見學記

史話會部員　菊池康雄

◎第一日　六時起床、昨日は一日中曇かくて見學にめぐまれた日和であったが、今朝は雲が出て昨日程の天氣は望めないらしいが、風が冷くないのは何よりだ。朝食後、鐵製クツワをスケッチした後出發の準備をした。本部を出たのは八時頃であった。今日の仕事は郡方後円墳を掘り穿げる作業と發掘の終った諸石棺の實測が行はれる豫定である。

私は昨日見た古墳や石棺を又一巡した。そして二十九號の石棺をスケッチした。この石棺は玉石を舟形に敷きつめたもので、舟形石棺の形を模造したものであろう。又ねん土お舟形にして石を積み上げたのであるかも知れない。瞭然の田丸生のお話によると『今迄發見された事のない、珍しい例である。との事である。大きな円墳で墓を巡らした跡がある。他の石棺は二米内外であるがこの石棺の長さは四米もあり余りにも大きいのに驚く、東部からは何も發見されないが、遺骸を葬むつたらしく、中央より西側にかけて石製模造品が發見された。

石製模造品は上代に於て死者に副葬する器物を滑石にて模造したもので、現在六文錢を棺に入れずに、紙に印刷したるものにて代用するが如きもので、發見の品は、盤、一ケ、ノミ一ケ、鎌一ケ、剣?一ケ、鏡一ケ、刀子七ケ、等である。この模造品によつて實物の發見はなくとも、これ等の器物を使用した事は想像出來るのである

×　×　×

十時頃、日映のカメラマンが來て見學中の女學生や、發堀作業、石棺、人骨等を撮影して、晝頃本部へ引上げた。本部にて直刀や鐵製クツワ、玉類等の遺物を撮影する豫定である。

×　×　×

三時頃先生に別れを告げ女學生と遺跡、遺物の話をしながら四時七分鹿島發の上りで歸路についた。

相變らず上昇の一途

十一月中の平署ヤミ物價調べ

平署の調査による十一月のヤミ物價は左のとおりで、主食類は收穫をみたという關東北の水害やら先行見越しの思わくやらで値下りどころか逆に十月中旬頃より値上りを示している。繊維も九月より五割方の値上り、その他野菜、タバコ、木炭等いづれも〳〵高くなつていて、千八百金ベースでどうして生きてゆくことが出來る、安本のお歴々によく調べて貰ひたいものである。（單位円カッコ内は公價）

▲白米（一升）一〇〇（二一、二〇）▲醤油（一升）一二〇（一〇、八〇）▲ミソ（貫）二七〇（二八、三〇）▲小麥粉（貫）三〇〇（四三、八一）▲イワシ（貫）一六〇（五二、〇〇）▲ジャガイモ（貫）五〇（一三、〇〇）▲大根（貫）二五（五、〇〇）▲ネギ（仝）六五（一八—五〇）▲煎茶（百匁）一〇〇（一一〇、〇〇）▲鶏卵（一個）一二（一二、〇〇）▲キンシ（一個）四〇（一一、五〇）▲石鹸（一個）一一〇（一、九〇）▲電球（一個）三八（一八、四〇）▲繊糸（九匁）四〇（四、五〇）▲タオル（一本）一〇〇（一六、九〇）▲木炭（一俵）二一〇（八四、〇〇）▲地下足袋（一足）四〇〇（六九、五〇）

何がベースか千八百圓百千

法人營業の稅申告の注意

地方事務所では稅制の改正により營業稅は今度地方に移讓されることになつた結果、關係例第二十六條と第二十七條に基いて各營利法人に對する營業の純益金は地方事務所長に於いてこれを決定することになつたので、申告に萬遺憾のないよう又申告期限の到來した法人は地方事務所宛に至急申告するよう左の如き注意を發した

營業稅につき納稅義務ある法人は左に定めるところにより、その期間内に財產目錄、貸借對照表、損益計算書又は精算若しくは合併に關する計算書を添付し營業の種類當該事業年度中（清算純益に關するものにあつては合併又は解散の日）に有していた營業所の名稱及びその所在地の府縣知事（數府縣において營業所を有するときは主たる營業所所在地の府縣知事）に申告しなければならない

一、各事業年度の純益について每事業年度決算確定の日、合併の日又は清算着手の日から三十日以內

二、解散した場合の清算純益については合併後存續する法人又は合併により設立した法人より合併の日から三十日以內

【錄音放送】

空飛ぶ圓盤が會津にも現る

北アメリカに先ごろ出現した空飛ぶ円盤らしいものが九日北會津郡一箕村の滝澤峠上空を飛んだ、若松署の二警官が見たもの、その談によると午後三時半ごろで長さ約一メートルの円形でジュラルミン板が光るようで、まるでロケット機の噴射ガラスのような末廣がりの尾をひいていたと

結核豫防に

BCG强制注射

結核豫防のため市郡下では小學校四年以上、中等學校、青年學校生徒全部と各事業所の十一歳から二十五歳までの者全部に明春二月三日から十七日までの間にBCGの强制注射を行うことになつた

カメラと附屬品

現像　燒付、引伸

カメラ修理は良心的營業の

茂木カメラ店へ

平市平和通り

家出若人のとんだ災難

東京都板橋區志村蓮根町三四無職少年宮城君（一二）は常磐地方の炭鑛で働こうと十日家出綴驛まで來て近くの炭鑛數ヶ所に當つてみたが、合宿所は滿員で全部おことわりにすごく〳〵綴驛にもどつたが、たまく〳〵地本の不良三人に上衣や所持金全部を卷上げられたので綴驛から夜空の寒さを上衣なしで平驛前までたどりつき驛前交番に屆出た、署員も同情市社會課に十一日連行して善處方を依賴した、なお仝人の父親は東京で整備工をつとめ兄弟四人全部働いてるので自分もとは林檎の川口警部補製造株式會社に働いてた

麻雀大會

短刀所持で二十日夕送檢

薩摩守送檢——綴驛から無賃乘車して來て平驛に捕われた內郷町字前田採炭夫內山力夫（一九）は假名——は綴帶に就職中に刀彼スすの短刀を所持してだので銃砲等所持違反に依てものもの

久しく休業していましたが來る十四日より趣向を變へて開業致します、何とぞお遊びのほどお待ち申上げます

期日　十二月十四日午後一時（日曜）

會費　百圓

賞品　十等まで

場所　平和荘

田町三（世界館横とらや）

キモノと洋服

高價・親切

買入

平駅前白銀通り

福屋

銀座街の

家庭醫藥品の御用は——

ア町番

阿コウ田4

康市4

へ平電

母セイ儀　葬送の際は遠路御會葬下され剩え御香料等を賜り有難く御禮申上候一々略儀乍紙上厚く御禮申上候

昭和二十二年十二月十一日

內郷町白水字濱井場一

喪主　賀澤道雄

賀澤貞雄